

ごみ資源化施設建設NEWS

みんなで実現！ごみマイナス40% -40%

Vol.2

町田市のごみ処理の歴史

町田市のごみ処理は、1956年に金森焼却場を開設したのがはじまりです。1969年には下小山田町に移転、その後、大型団地の建設等による急激な人口増加に対応するため、1982年に「町田リサイクル文化センター」を新設しました。

町田リサイクル文化センターは、現在、運転開始から約30年が経過し、通常の維持管理費のほかに年間約10億円の修繕費がかかっており、将来にわたって安定的なごみ処理を行っていくために、新たなごみの資源化施設の整備が喫緊の課題となっています。



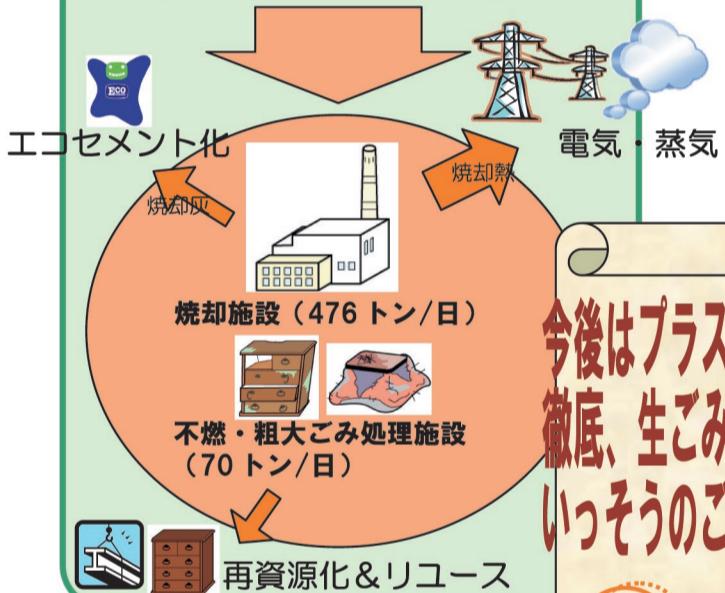
新たなごみの資源化施設をつくります

循環型の社会を実現し良好な生活環境を次世代に引き継いでいくため、そして、将来にわたって安定的なごみ処理を行っていくために、町田市では、ごみの徹底した資源化とさらなる環境負荷の低減を目指します。

こんなに変わる、ごみの資源化！ —「町田市一般廃棄物資源化基本計画」では—

現在の施設

ごみ：約99,000トン/年



ごみとして
処理する量を
40%削減

2020年度の施設

ごみ：約60,000トン/年



今後はプラスチックごみや資源物の分別の
徹底、生ごみの水切りやたい肥化など、
いっそうのご協力をお願いします。

家庭や事業所で取り組んで
いただきたいこと

- 生ごみの発生抑制：5,000トン/年
(水切りなどで1人1日32g*削減！)
 - 生ごみのたい肥化：3,000トン/年
(生ごみ処理機で1人1日19g*削減！)
 - 事業系ごみの排出抑制：
3,000トン/年
(徹底した分別・資源化)
- *参考：切り餅1つで約50gです。

資源化量
なんと
90%増!

ごみ：焼却が原則

ただし…

- 燃やせるごみの焼却熱は、空調設備や発電に利用。
- 焼却灰は、エコセメントにして道路の側溝や縁石などの製品に利用。
- 現在は、プラスチックごみも一緒に燃やしています。

ごみ：徹底的に資源化!!

左にプラスして…

- プラスチックごみを分別して再資源化！
- 生ごみは、発酵させてバイオガスを取り出し、収集車の燃料や発電に利用！